

ルネサス（NC30）C言語の統合環境HEW（Ver3.0）でH-debugger用に 新ワークスペースおよび新プロジェクトを登録する方法（R8C版）

ルネサスC言語用統合環境“HEW Ver3.01（release1）”でH-debugger用の新ワークスペース／プロジェクトを登録する方法の手順を説明します。

説明を明確にするために、名前等を仮に決めて例に沿って説明を進めます。

ワークスペース名：	HewR8C		
プロジェクト名：	R8C114		
登録モジュール名：	Ancrt0.a30	ASMファイル	ncrt0.a30をH-debugger用に変更済み
	R8c114.c	Cファイル	メインモジュール
インクルードファイル名：	Asect30.inc	ASM用	sect30.incをH-debugger用に変更済み
	io11r8c.h	C用	I/O定義
	Nc30debugR8C.h	C用	ソフトパーツ
CPUタイプ：	R5F21_11_4		

1. 新ワークスペースの登録方法

“HEW”起動させます。



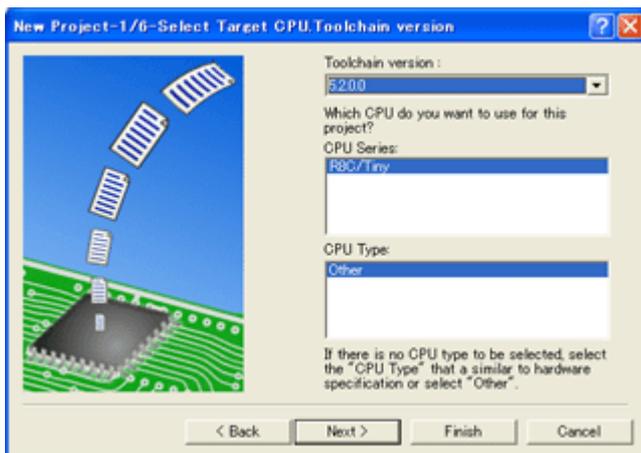
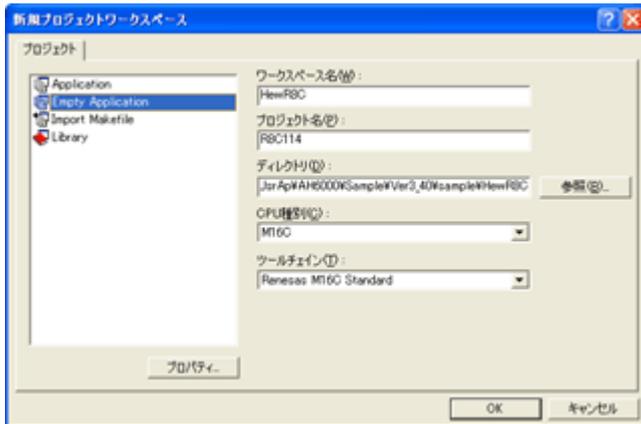
「新規プロジェクトワークスペースの作成」をチェックしてのOKをクリックする。

もしくは、Cancel後に、[ファイル]-[新規ワークスペース]をクリックします。

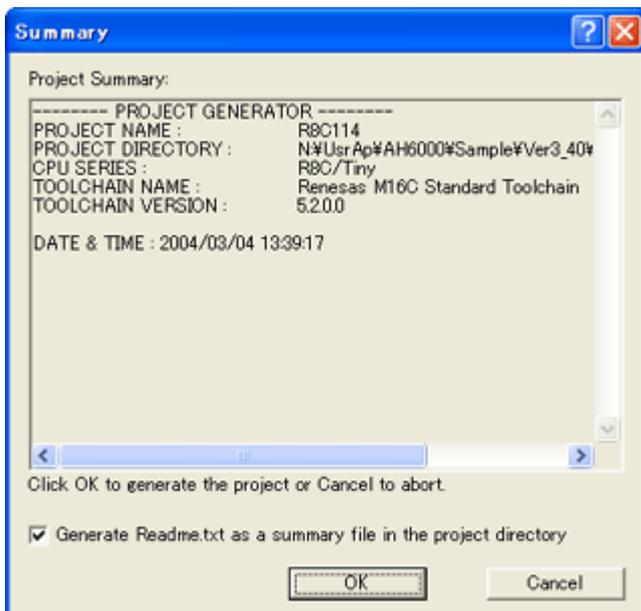
プロジェクト「Empty Application」を選択

ワークスペース名	HewR8C
プロジェクト名	R8C114
ディレクトリ	c:\¥Hew3¥HewR8C
CPU種別	M16C
ツールチェーン	Renesas M16C Standard

この項目を確認後、OKをクリックして下さい。



CPUスペックを確認後、**Finish**をクリックして下さい。



このようにサマリーが表示されますので、**OK**をクリックして下さい。

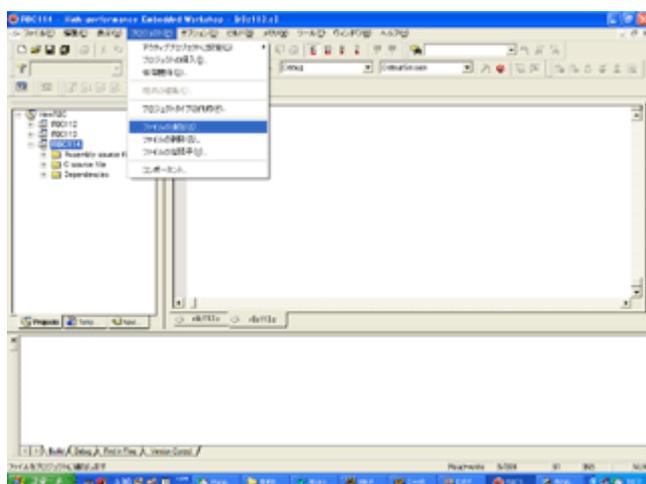
ここでワークスペースの登録は最終になります。

2. プロジェクトに希望モジュール（ソースファイル）を登録する方法

準備： 作成済み下記ファイルの新ワークスペース “c:\¥Hew3¥HewR8C¥R8C114” にコピーして下さい。

登録モジュール名：	Ancrt0.a30	ASMファイル	ncrt0.a30 を H-debugger 用に変更済み
	R8c114.c	Cファイル	メインモジュール
インクルードファイル名：	Asect30.inc	ASM用	sect30.inc を H-debugger 用に変更済み
	io11r8c.h	C用	I/O 定義
	Nc30debugR8C.h	C用	ソフトパーツ

「Ancrt0.a30」と「Asect30.inc」等は、製品CDの “¥sample¥HewR8C3_0¥R8C114” の中にあります。

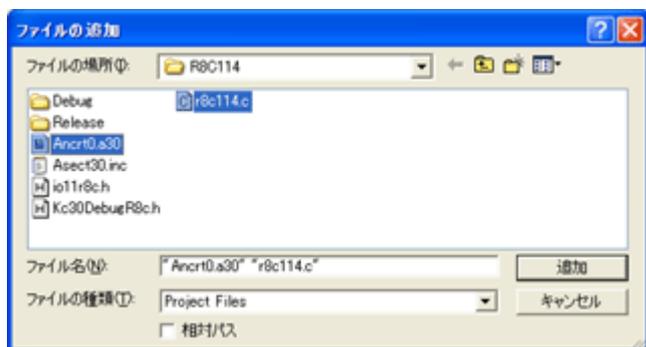


2ファイルを選択します。

Ancrt0.a30

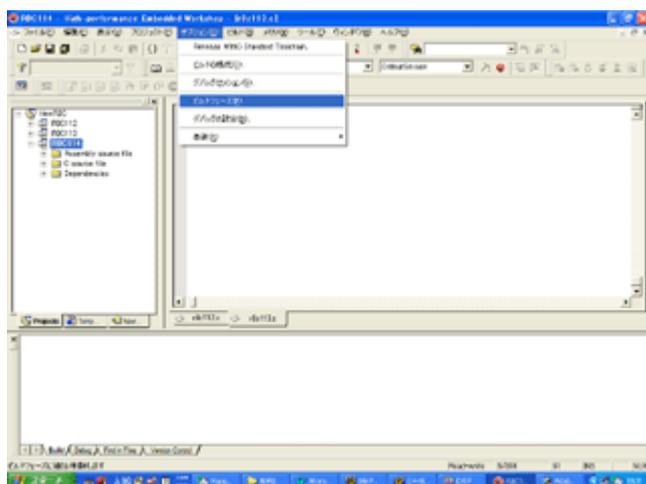
R8c114.c

「プロジェクト」－「ファイル追加」をクリックします。
選択後、**追加**をクリックします。

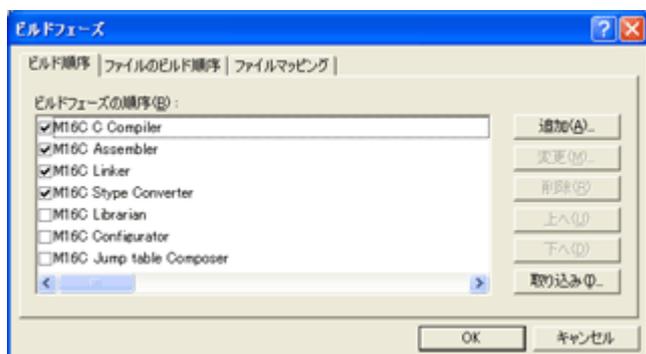


この操作により、プロジェクトのファイル登録が完了しました。

3. シンボルコンバータ「HCsymconv」を登録する



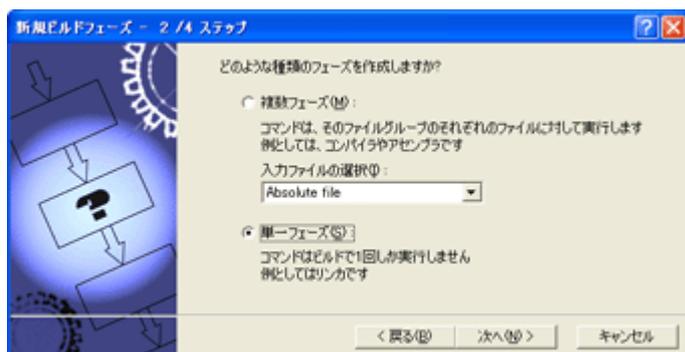
「オプション」－「ビルドフェーズ」をクリックします。



追加をクリックします。

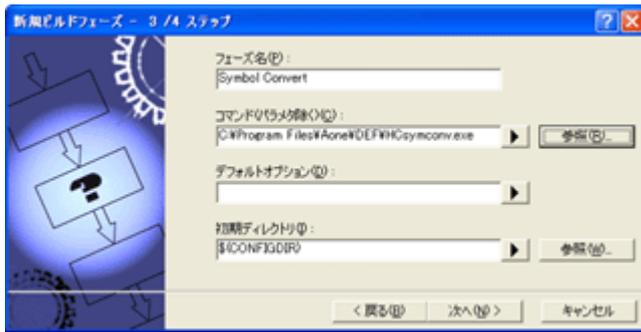


次へをクリックします。



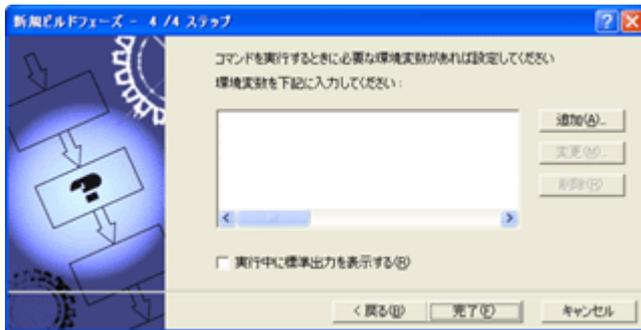
単一フェーズにチェックします。

次へをクリックします。

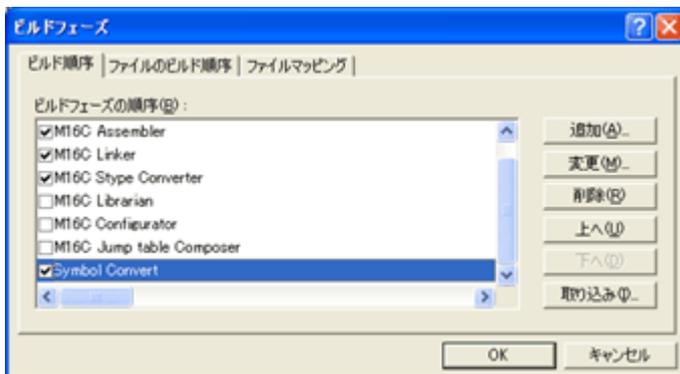


フェーズ名 Symbol Convert
コマンド
c:\Program Files\Aone\DEFY\HCsymconv.exe
を選択する。(デフォルト)
初期ディレクトリ \$(CONFIGDIR)

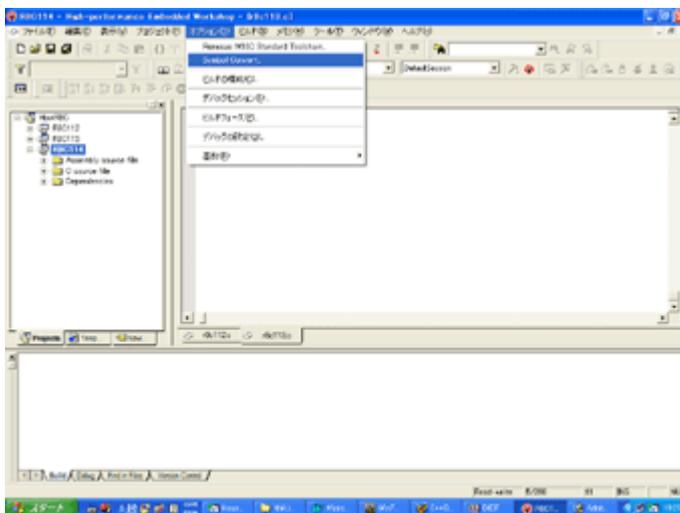
次へをクリックします。



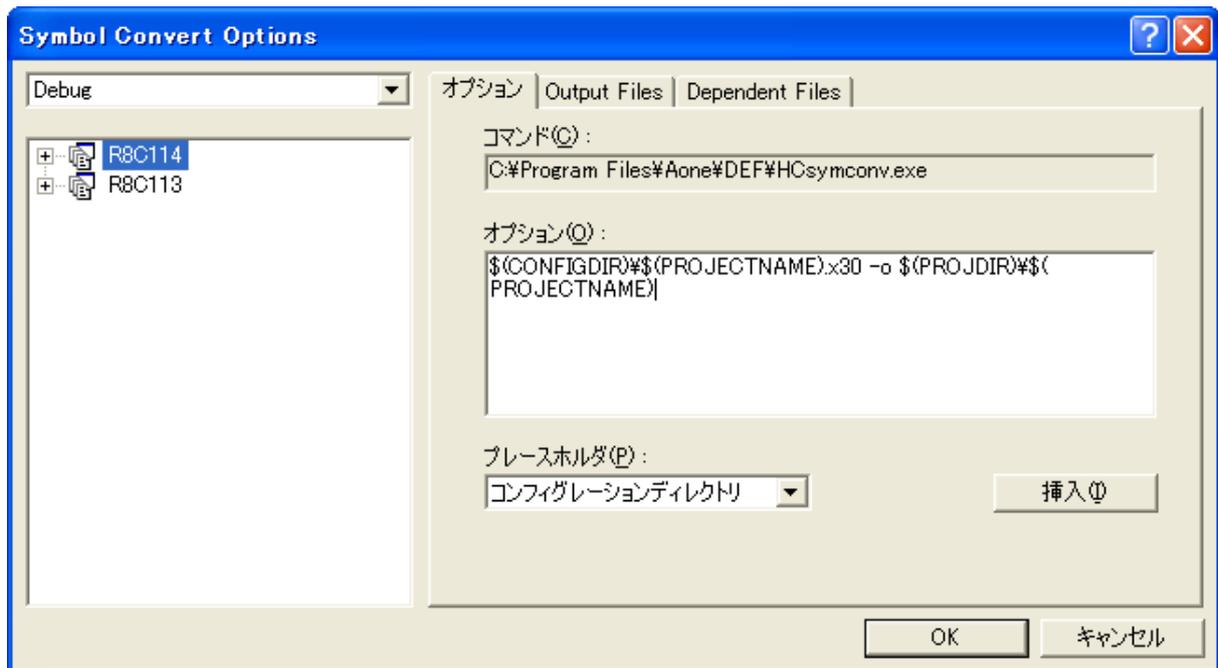
完了をクリックします。



OKをクリックします。



「オプション」－「Symbol Convert」をクリックします。



- オプションに下記内容を設定する。

`$(CONFIGDIR)\$(PROJECTNAME).x30 -o $(PROJDIR)\$(PROJECTNAME)`

ディレクトリ名にスペースを使用している場合は、

`"$(CONFIGDIR)\$(PROJECTNAME).x30" -o "$(PROJDIR)\$(PROJECTNAME)"`

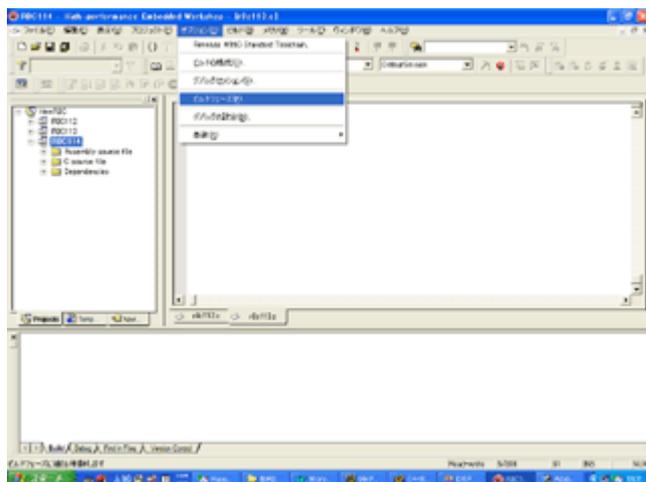
のように、“ ” ダブルクォートで囲んでください。

(重要) これは、デバック情報ファイルをCソースファイルのある同じディレクトリに置くための指定です。

- **OK** をクリックします。

以上で、シンボルコンバータの登録が完了です。

4. ツールの設定

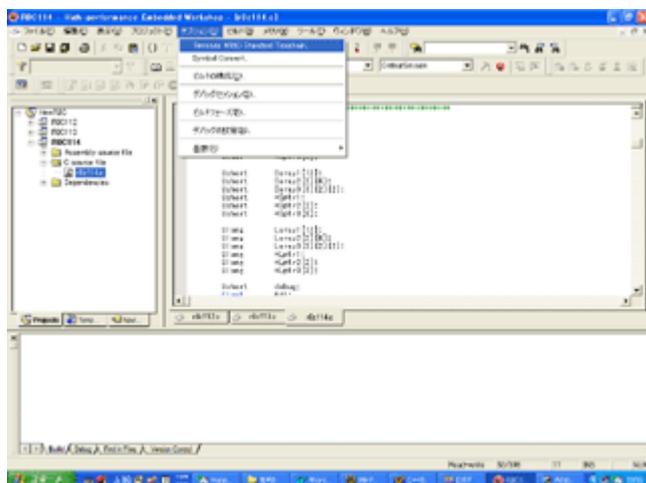


「オプション」－「ビルドフェーズ」をクリックします。

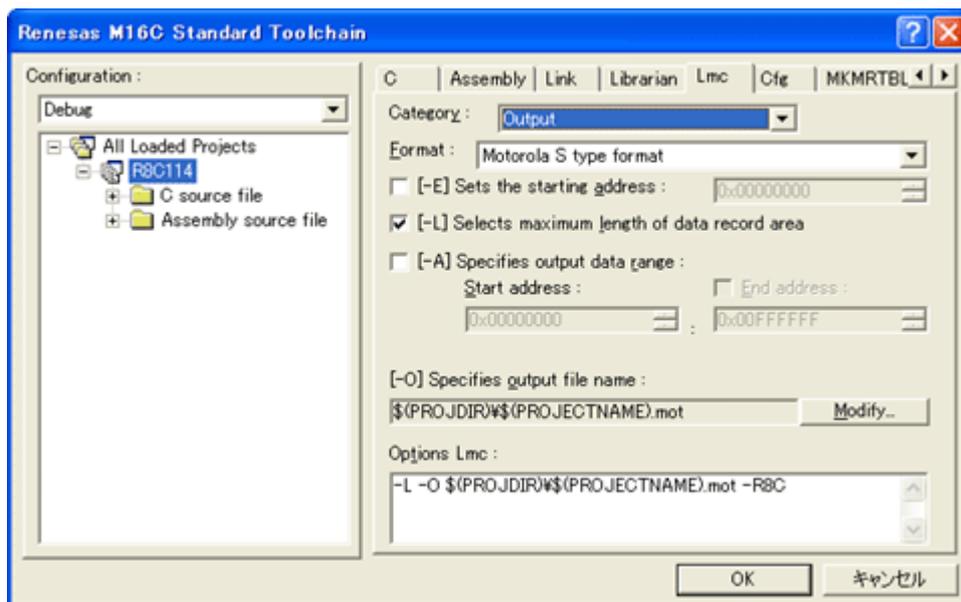


M16C Stype Converter
にチェックします。
(Hexファイル作成ツール)

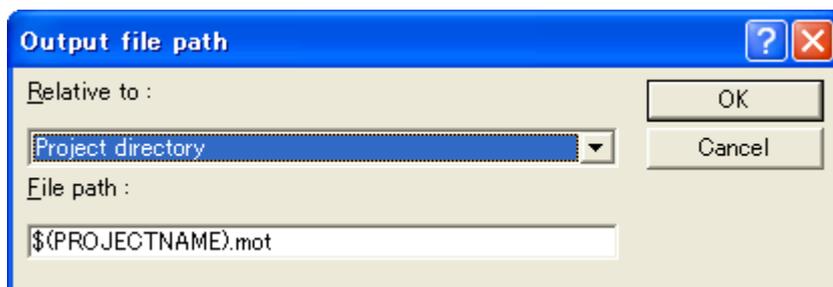
OKをクリックします。



「オプション」－「Renesas M16C
Standard Toolchain」をク
リックします。



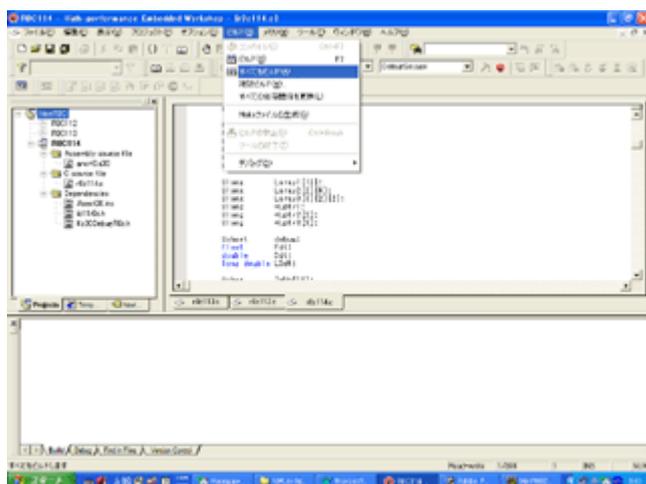
- Lmc タグをクリックします。(Hex ファイル作成ツール)
- Hex ファイルの出力先を指定します。Modify をクリックします。



- Relative to: を「Project directory」に指定します。
- File path: を「\$(PROJECTNAME).mot」に指定します。
- OK をクリックします。

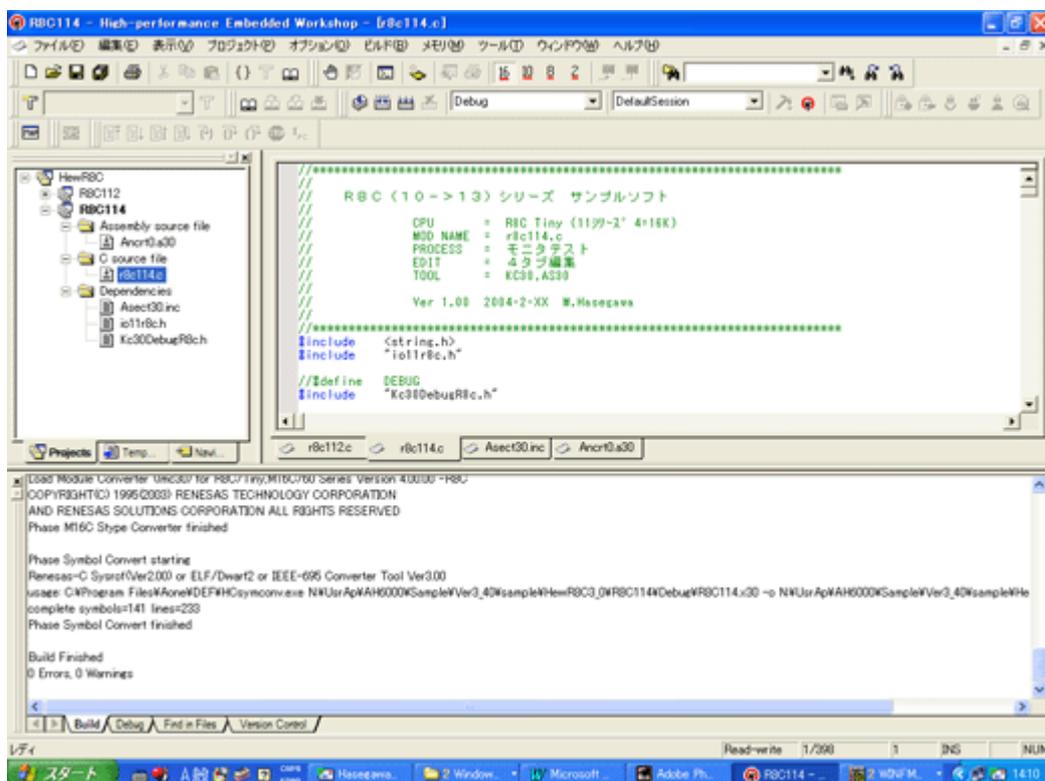
(重要) これは、HEX ファイルを C ソースファイルのある同じディレクトリに置くための指定です。

5. ビルドの実行



「ビルド」－「すべてをビルド」をクリックします。

この操作により、コンパイル、アセンブリ、リンク、Hexファイル作成、シンボル情報作成の作業を全て実行します。



• この画面のように「Build Finished 0 Errors, 0 Warnings」と表示されて無事完了です。

• プロジェクトディレクトリには、

R8C114. m o t 「\$ (プロジェクト名). m o t Hexファイル」

R8C114. l i n 「\$ (プロジェクト名). l i n ラインシンボルファイル」

R8C114. s y m 「\$ (プロジェクト名). s y m シンボルファイル」

の3ファイルが出ています。

この3ファイルにより「H－d e b u g g e r」でのデバッグが可能となります。

以上